

令和8年度水稻定点調査 結果 丹波県民局丹波農業改良普及センター、丹波篠山市、JA丹波ささやま、兵庫県農業共済組合

設置場所	調査年度	移植日	草丈					茎数(本/株)					出穂日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
			6月1日期	6月15日期	7月1日期	7月15日期	7月31日期	6月1日期	6月15日期	7月1日期	7月15日期	7月31日期						
後川上 47.6株/坪	R8	5月3日	27.9	41.6	61.9			11.1	16.6	21.5								
	平年比	-4	103%	118%	111%			143%	97%	95%								
	平年	5月7日	27.0	35.2	55.8	81.2	100.6	7.8	17.2	22.8	23.0	22.7	7月28日	85.9	17.9	21.4	482.9	21.7
般若寺 62.9株/坪	R8	5月20日	24.6	37.0	56.5			4.5	12.2	25.3								
	平年比	+13	90%	98%	94%			51%	59%	95%								
	平年	5月7日	27.3	37.9	59.9	84.3	105.1	8.8	20.8	26.8	23.1	22.5	7月26日	86.4	18.5	22.2	465.7	21.5
本郷 43.1株/坪	R8	5月3日	28.8	46.6	63.7			9.7	14.8	27.4								
	平年比	-1	108%	137%	109%			120%	106%	127%								
	平年	5月4日	26.6	34.1	58.6	82.6	101.3	8.1	13.9	21.5	19.2	19.1	7月24日	81.7	18.6	19.1	438.4	22.2
真南条中 36.7株/坪	R8	5月23日	28.6	39.9	61.6			4.8	10.5	26.1								
	平年比	+14	107%	104%	108%			47%	49%	99%								
	平年	5月9日	26.8	38.2	56.8	79.2	101.2	10.2	21.3	26.3	23.8	22.2	7月25日	81.9	18.8	21.3	391.9	22.3
町ノ田 59.5株/坪	R8	5月6日	33.9	51.6	62.2			12.3	22.0	24.6								
	平年比	-2	114%	138%	106%			127%	110%	102%								
	平年	5月8日	29.8	37.4	58.8	81.1	103.0	9.7	20.1	24.1	20.1	19.6	7月25日	86.1	17.7	19.6	453.0	21.9
川原 53.0株/坪	R8	4月24日	30.1	47.8	70.1			17.6	17.0	20.8								
	平年比	-17	120%	145%	133%			260%	123%	103%								
	平年	5月11日	25.2	32.9	52.8	80.2	99.3	6.8	13.8	20.1	20.3	19.8	7月28日	80.2	18.4	18.7	429.1	21.8
上小野原 57.9株/坪	R8	5月16日	25.5	31.0	64.0			8.9	14.6	27.6								
	平年比	0	106%	97%	117%			187%	112%	120%								
	平年	5月16日	24.1	31.8	54.9	78.9	99.2	4.8	13.0	23.1	22.2	21.4	7月28日	81.2	18.6	20.4	381.0	21.7
令和8年平均		5月9日	28.5	42.2	62.9			9.8	15.4	24.8								
対平年比		±0	107%	119%	111%			123%	90%	105%								
平年		5月9日	26.7	35.4	56.8	81.1	101.4	8.0	17.2	23.5	21.7	21.0	7月26日	83.3	18.4	20.4	434.6	21.9

【7月1日調査】

7月1日の調査では、全体平均で草丈は62.9cmで平年(56.8cm)と比べ111%と平年より高くなった。また、株当たりの茎数は24.8本で平年(23.5本)と比べ105%と平年よりやや多かった。前回調査(6/15)で茎数が平年比90%と少なかったが、ほぼ平年並みに回復している。

病害では、一部の定点で葉いもち病の症状が見られた。6月下旬の気温が平年より低く、日照時間も少ないため、いもち病の感染好適日が多かった。圃場をよく観察し、葉いもちの発生状況を確認し、上位葉に病斑が見られる場合は穂ばらみ期の薬剤防除を必ず行う。また、虫害では、定点ほ場で斑点米カメムシ(アカスジカスミカメムシ、クモヘリカメムシ)が捕獲された。今後の発生に注意する必要がある。

今後の管理については、7月上旬から幼穂形成期に入るので、中干し終了後は間断灌水で水と酸素を供給する。従来の分施肥型の穂肥は、出穂18日前(幼穂長0.8～1.5mm)に施用する。